

林肇駐英国日本国大使による挨拶

(故奥克彦大使の20周年を偲びラグビー「奥記念杯」を激励するためのレセプション、
ラグビー・教育を通じて日英友好促進に貢献したレジ・クラーク氏への旭日双光章伝達式)
2023年11月24日(金)

来賓の皆様、

今晚はお集まりいただき有難うございます。本日のレセプションは、二つの相互に密接に関連しながらも異なる目的を持つ、非常にユニークな機会であると言えます。

第一の目的は、奥克彦大使が悲劇的な死を遂げてから20年という節目に、心から彼を悼み、偲ぶことです。故奥大使、「カツ」は、早稲田大学でラグビー部に所属していました。彼は将来を囑望された才能豊かなフルバックでしたが、外交官試験に専念するためにラグビー部を退部しました。外務省入省後はオックスフォード大学ハートフォード・コレッジに留学し、オックスフォード大学ラグビー部に所属し、「ブルー」を獲得した初の日本人となりました。その後、外務省で様々な役職を歴任し、在英国日本国大使館の参事官として文化交流事業「ジャパン2001」の運営に携わりました。

カツは、バグダッド陥落直後の2003年4月から、ロンドンを拠点にイラクに長期出張し、日本政府と復興支援人道室／連合国暫定当局との調整役として中心的な役割を果たしました。彼は、日本のイラク復興支援の中心人物としてイラク各地を訪れ、子供たちの輝く瞳にイラクの未来を見ていました。しかし、2003年11月29日、わずか45歳の若さで凶弾に倒れるという悲劇に見舞われました。カツは比類なき使命感を持った情熱の人でした。彼の情熱を形作ったのはラグビーだったと言っても過言ではありません。彼の遺志は、かつて共にラグビーをプレーした仲間を含め、多くの人々の心の中に生き続けています。彼の生涯を讃え、奥大使に黙祷を捧げたいと思います。

ご一緒に黙祷いただき、有難うございました。

このレセプションの第二の目的は、ラグビーを通じて日英親善に多大な貢献をされた、ライノ・スポーツ&レジャー社CEOのレジ・クラーク氏に旭日双光章を授与することです。レジは、1980年から1982年まで神戸製鋼に勤務し、ラグビー選手として活躍しました。1981年には外国人選手として初めて関西代表に選出され、日本代表と対戦しました。彼は、まさしく、英国の洗練されたラグビー文化、戦術、トレーニング法を日本に紹介したパイオニアです。1995年の阪神・淡路大震災後には、ラグビーを復興の力にするとの考えの下、1996年6月に世界的に有名なバーバリアンズを日本に招き、チャリティーマッチを二試合開催しました。また、オックスフォード大学と早稲田大学、同志社大学、関西学院大学など日本の大学との試合を定期的に開催しているほか、2015年と2019年のラグビーW杯の際には、学生を対象とした「W杯」を企画しました。

レジの貢献は教育分野にも及んでおり、日英間の学術・研究交流を促進してきました。彼は、オックスフォード大学セントキャサリンス・コレッジ神戸インスティテュートを兵庫県に設立するに当たって主導的な役割を果たしました。また、1994年には「オックスフォード神戸奨学金」の設立に尽力し、現在もその運営に携わっています。

おそらく、今日ここにいる多くの人が、レジを「奥記念杯」の主催者として認識しているでしょう。彼はカツのオックスフォード大学での親友の一人でした。そしてカツが亡くなった翌年の2004年から「奥記念杯」を始めました。カツとの友情、そして20年近くに亘って多くの人から愛されるイベントを続けてきたレジに、深い敬意と心からの感謝を表したいと思います。カツが天国から我々を見下ろして、早稲田大学ラグビー部の「荒ぶる」を歌いながら、レジの叙勲を祝ってくれている姿が思い浮かびます。

以上のとおり、レジ・クラーク氏は、「奥記念杯」の普及を始め、ラグビーや教育を通じて日英の相互理解と友好の促進に尽力されました。日本政府を代表し、レジの多大なる貢献に心から感謝申し上げます。レジ、おめでとうございます！